



鈴木 整 さん
塩釜市青年四団体連絡協議会会長
株式会社一の蔵常務取締役



阿部 仁美 さん
塩釜歯科医師会副会長
社会福祉法人萩の里理事長



風見 正三 さん
宮城大学事業構想学部教授
副学部長

特集：新春座談会

未来へつなぐ 塩竈のたからもの



昨年は、被災した藤倉児童館のオープンや、災害公営住宅の建設など、復興へ向けた事業が多くありました。復興の先を見据えたまちづくりの可能性について、さまざまな立場のゲストをお迎えし、ケーブルテレビ マリネット・佐々木智子さんの進行のもと、市長・議長とお話いただきました。



佐々木 智子 さん
(司会進行)
ケーブルテレビ マリネット



佐藤 英治 塩竈市議会議長



佐藤 昭 塩竈市長



震災を乗り越え、

魅力あるまちへ

司会 あけましておめでとございます。2014年の新春座談会、まずは市長からご挨拶いただきます。

市長 本日は、よろしく願っています。昨年を振り返ってみますと、震災復興関連の出来事が多くありました。宮城県の村井知事が標榜している「創造的復興」に一步近づけたかと思いますが、被災者の方々には、まだまだご不便をかけている状況です。今年こそは、いい年だったと言われるよう、本日、皆さまからご意見を頂き、これからのまちづくりの参考にしてまいりたいと存じます。

司会 ありがとうございます。では、ご出席の皆さまにも自己紹介を兼ねて一言お願いいたします。

鈴木 塩釜市青年四団体連絡協議会会長の鈴木です。塩釜市青年四団体連絡協議会は、氏子青年会、商工会議所青年部、青年会議所、水産青年連合会の四団体が横でつながる協議会です。青年団体同士がともに活動しているのは、ほかの地域では見られないことですが、塩竈では、お互い協力し合い、助け合い、地域を盛り立てていくと頑張っています。

阿部 社会福祉法人萩の里の理事長を務めています、阿部です。また、今年度か

ら塩釜歯科医師会の副会長を務めています。高齢者福祉の現場は、いろいろな問題が山積みですが、地域の皆さんの力になれるよう、奮闘しています。また、歯科医師会では、地域医療の拠点として、歯と口腔の健康のため努力しています。これからは医療・福祉のネットワークが必要になっていきますが、どちらの仕事にも携わっていますので、少しでもお役に立てるよう、頑張っています。

風見 宮城大学事業構想学部の方見です。まちづくりやコミュニティビジネスなどを専門としています。塩竈市では、定住促進課で進めている定住人口戦略プランの策定に関わっており、7月の定住促進フォーラムでは、その成果を発表することができました。塩竈の魅力は、歴史と文化の薫る港町の風情です。マリネットの番組「志の風を見る」では、梅の宮、長沢町に計画された「塩釜港文化村」を紹介するなど、地域資源を活用したまちづくりやそれらを支える若い人たちに焦点を当て、塩竈の魅力を伝えていきたいと思っています。

議長 9月に議長に就任しました、佐藤です。市民から信頼され、期待される議会を目指したいと考えています。昨年は、行政の努力で、災害公営住宅や、土地区画整理事業などを進めることができました。議会としては、同じ気持ちですので、復興がなお一層加速するよう、努めてまいります。

歴史と文化の薫る

港町

司会 それでは、皆さんが日ごろの活動で感じていらつしやる塩竈の魅力、あるいは課題だと思われることなど、ご意見をいただけますでしょうか。

鈴木 震災前より塩竈が良くならなければと、四団体としては、2月に練り物のイベントを計画しています。塩竈は、以前は練り物の生産が日本一と言われていましたが、震災後は日本一ではなくなっていました。そこで、大きな鍋でおでんを作り、練り物生産日本一の復活につながるよう、アピールしたいと考えています。中心となるのは水産青年連合会ですが、塩竈ならではの横のつながりで、ほかの団体もバックアップしていきます。

風見 東京にとつての横浜、大阪にとつての神戸など、大都市の近くには魅力的な港町が存在しています。塩竈は、仙台に近接した、横浜、神戸に匹敵する魅力的な港町です。

議長 塩竈の魅力は海であり、また、浦戸諸島も財産であると考えます。「光る海」として、歴史、文化、神社中心の行事など、もっと光らせなければならぬと思います。浦戸の活用として、子どもたちのために、自然を生かした海の学校



◀平間至さん、ドラゴンアッシュのアツシさんらによるロックイベント「ガマロック」

▲日比野克彦さん中心に被災地をまわる「タネフネ」

などをつくれれば、光るのではないかと思います。

鈴木 そういえば、横浜にも神戸にも、『もともち』がありますね。塩竈の本町は、しにせの酒蔵やお茶屋など、宝物がたくさんあります。出張で全国に行きますが、活気のあるまちは、しにせと新しい店が共存しているところが多いです。塩竈は、まだそういう部分が少ないですが、スイーツに関しては、それを目当てに外からも人が来る、新しい店も多いです。四団体もイベントなどで塩竈のスイーツを応援しています。

風見 魅力的なまちは、古い伝統と新たな文化が融合しています。塩竈では、平間至さんを中心にしたロックフェスティバルであるガマロック、日比野克彦さんが中心となって被災地をまわっているタネフネなど、素晴らしいイベントが若い人たちの手によって開催されてきています。ぜひ、持続的なイベントにしたいと思っています。いろいろな人や文化を受け入れる、開かれたまちこそが港町の魅力です。これからのまちづくりは、行政や議会も、市民に開かれていくことが基本となります。

市長 『開かれたまち』というキーワードがありました。まちづくりへのさまざまな市民活動をもっと活発にしていくなために、行動し続けることが大切と考えています。市民に実感いただけるような『創造的復興』のため努力していきます。



松島湾をつなぐイベント「つなぐ湾フォーラム」から
▲寒風沢出身、日本で初めて世界一周した津太夫を語り継ぐ「語り継ぎのためのリーディング」
▶魚網をあむ「そらあみ」



風見 これからは、塩竈だけでなく、千賀の浦湾全体を通じた地域活性化を進めていくことが重要です。「チガノウラカゼコミュニティ」という一般社団法人は、湾をつなぐまちづくりを発信しています。

また、市内の高台も、コミュニティバスが整備されれば、美しい風景の楽しめる住みやすい場所にかわります。塩竈港文化村はまさに、こうした美しい港の風景を楽しむ先見性のある住宅地でした。このような可能性をひとつひとつ実現していけば、ここに住みたい、という人がさらに多く訪れることになるでしょう。

議長 交流人口については、塩竈市だけで頑張るより、二市三町を含め、湾を臨む市や町が相互に交流することで、経済効果や、景気にも結びつくのではないのでしょうか。今、東松島市の議員とも交流をしているところです。広域的な視点が大切だと思います。

市長 広域的な交流について取り組むべきと課題を提示されました。これからの行政に反映したいと思います。



▶塩竈港文化村の調査の様子は、ケーブルテレビマリネットで放送されました

高齢者が

住みやすいまち

阿部 今、福祉の業界は、賃金が安い、仕事がつきないなどの悪いイメージがクローズアップされ、職業として目指す人が少なくなっていました。「秋の里」では、一中の生徒さんが、毎年実習に来てくれます。多感な中学生の時期に、このような取り組みを行うことは素晴らしいことですので、ぜひ継続してほしいと思います。今後も、子どものころから、福祉の職場を目指してもらえれば、地域づくりをしていかなければ、と思います。

また、インターネットを介してネットワークをつなぎ、病院と介護施設が情報を共有することができるよう取り組みも始まっています。いつまでも住み慣れた地域で暮らせることを目指していきます。

市長 地域医療・福祉の問題では、高齢者福祉の対象人口が今後もっと拡大し、それらの方々の期待にだけこたえられるか。塩竈らしい、高齢者福祉を実現できればと思います。

阿部 先の震災時の反省から、秋の里は、災害時に地域の防災拠点となる施設を目指しています。先日初めて、地域の方々と一緒に防災訓練を行いました。家族に要介護者を抱えているような人が、頼れる施設になるよう、取り組みを始めたところです。

市長 震災のときには、想定していた避難者数の3倍の人が避難し、物資が間に合わなかったという反省があります。自助、共助、公助とありますが、阿部さんにお話しいただいた、施設と地域のつながりは、共助になるのかと思います。新たな地域防災計画を作っているところですが、計画の中で、そのような仕組みを作りたいと考えています。



▶避難所には、炊き出しなどさまざまな支援をいただきました

大切なのは、次の

世代につなぐこと

司会 それでは、塩竈がどのようなまちになってほしいか、どのようなまちを目指すべきか、その可能性についてお考えをお聞かせください。

阿部 子どもも少なくなり、競争力が培いにくくなっている今、次の世代を育成するベースとなる教育に力を注いでほしいと思います。また、地元に応じた職種、企業があるか、子どものうちに知ることができるような取り組みを進めてほしいですね。大きくなり、仙台や東京など、地元を離れて進学した子が、地元で働きたい、またここへ戻ってきたい、と思えるような仕組みを作っていければと思います。

風見 今、東松島市で、C・W・ニッコール氏と共に『森の学校』という事業に取り組んでいます。津波で流され高台移転する小学校を、自然と共生し、地域と共生する学校として再建するものです。地域愛が生まれるまちづくりは、歴史・自然・文化を踏まえた志と心の教育から始まります。

鈴木 大人も、地元の歴史を知るべきだと思います。伊勢神宮に行った際、伊勢の方々のホスピタリティというか、おもてなしの心が素晴らしいと思いました。



▶ 中高生が保育士を体験
▲ 本町の魅力を満喫するまちあるき事業



それは、地域の方々が、『伊勢神宮』についての知識を持って、訪れる人々を歓迎し、神宮への敬意を伝えていく、という幼いころからの教育のたまものだと思います。塩竈でも、地元の歴史を学び、ホスピタリティや誇りなどを身に付け、それがまちづくりにつながっていけばと思います。

市長 教育のあり方について、お話しただきました。塩竈では『何でも体感団』という小学生向けの事業で、地域の特色あるさまざまなことを体験させています。

浦戸の学校も人気があり、市外からも児童生徒が来ています。それは、浦戸の方々が温かく子供たちを迎えているからだと思います。そのように、地域に根差した教育を進めていきます。また、鈴木さんがおっしゃるように、歴史と文化が色濃く残されている、このまちならではのホスピタリティ、おもてなしの心でお客様をお迎えしていきたいと思っています。



▲ 「しおがま何でも体感団」で
塩竈神楽を体験



▲ 自然の中を歩いて登校、浦戸第二小学校



▲高齢者に楽しいひとときを「高齢者まつり」
▶青年四団体が活躍「しおがま市民まつり」



地域愛で復興を

司会 貴重なお話し、ありがとうございます。では、最後に一言ずつ、お願いします。

鈴木 青年四団体は、気のいい「おんちゃん」たちです。高齢者と青少年との間をつなぐ役が、まちの「おんちゃん」のやるべきことと考えています。これからまち全体の起爆剤となるようなイベントなどをやっていきたいと思っています。より多くの市民の皆さんにご参加いただければ、我々の励みになります。どうぞよろしくお願い致します。

阿部 法人として、高齢者施設を、開かれた場所にしたいと考えています。今までは、閉ざされがちな空間でしたが、地域の方に気軽に訪れていただき、入居者が地域とつながりを持つことのできる施設にしていきたいと思っています。そして、災害などの困ったときには、地域で一緒に助け合うことができるよう、今後も取り組んでいきます。

風見 震災後、学生たちの意識は大きく変わってきています。震災後の大きな使命は、東北再生、日本再生であり、そのための基盤は教育であることを改めて認識しています。震災後の土地で、教育や産業がどうかかわるか、世界が注目してい

ます。魅力あふれるまちとは、歴史・文化・芸術があり、若い人たちが頑張るまちです。私は「志の連鎖が地域を救う」という言葉でいつも講演を閉じますが、東北には、本当に、志のある方が多くおられます。大震災を超えて、今こそ、志の連鎖を広げ、共に、持続可能なまちづくりを実現していきましょう。

議長 今日は、さまざまなお話しや課題を聞くことができました。議会も、夢を形にする政策の実現に向け努力していかねければと思います。頑張ります。

市長 作家の森村誠一さんは著書「芭蕉の杖跡」の中で、塩竈について、「古い民家の格子窓の奥に長い歲月貯蔵した歴史が謙虚な品格となつて隠されているようである」と書いていました。まさに、それが塩竈の魅力だと思います。被災地として、この危機をどう乗り切るか、どう生まれ変わるか。地域の方々に、ふるさとのことをどれだけ思ってもらえるか、ということがその評価になるかと思っています。塩竈が短期間でここまで復旧できたのは、市民の熱い思いが後押しとなったおかげです。2014年は、皆さんからいただいたお話しの一つ一つを検証し、まちづくりの方向性としていきたいと思っています。今日はどうもありがとうございました。

問 政策課市政情報係

☎ 364-1111

(内線266・366)



▲新春座談会は、「まちカフェ」（壱番館1階）で収録しました